

希望に再開あっせん

談任帰部長産水工商永県森

色歩譲に会社償候水

水俣病問題などで上京していた森永県商工水産部長は三日帰り、水俣市漁協の水俣病関係補償問題で新日窒側がやや譲歩の色をみせていることや、湾内のドベの処理問題などについてつぎのように語った。

○…新日窒本社を訪ねて補償問題に対する意向をたどしたところ

“地元の要望が強ければ無下に断わるわけにはいくまい”との返事だった。具体的内容はまだ不明だが、これまで金銭補償にゼロ回答していた会社側に譲歩の空気が出たものと思う。この問題で千原専務が近く来県する。あっせん再開にこぎつけられることを期待している。

○…企鵝庁水産調査課で水俣湾内のドベの処理問題を話し合った。同庁では採算の点から水俣湾の干拓は実現性がなく、湾内をしゅんせつする以外に方法はないとの考え方を示した。もつともしゅんせつに着手する前には水俣湾周辺の海流や産性の分布状況などについて最終的結論を出さなくてはならない。

○…三十六年度の不知火海沿岸の漁業対策について水産庁に陳情したが、同庁では三十五年度に支出した寒いか釣りの先達船に対する補助金一千万円は三十六年度には出さないとのべた。県費だけで先達船を出せるかどうかは検討しなければわからない。